



大津市原子力防災訓練（春季）監視行動 報告書

去る5月13日（日）に、滋賀県大津市葛川学区と伊香立学区（一部）を対象に原子力防災訓練が行われました。大津市は福井県の大飯原発のUPZ圏外、つまり30km以上離れている自治体ですが、福島原発事故では47km離れた飯舘村が被災地になったことから、47km圏を含む大津市では全国的にも珍しく独自の避難計画を作っています。

大津市の防災訓練は、当初昨年の10月に同じ地域を対象にして計画されていたのですが、直前の台風で訓練対象地域が被災したため中止になり、今回が初めての防災訓練になりました。大飯原発から30km圏内の京都市左京区久多地区は、万が一の場合、大津市に避難することになっており、葛川小中学校に子どもたちも通っているため、京都市がスクリーニングに協力していました。



スクリーニングを待つ子どもや母親

避難計画を案ずる関西連絡会と滋賀の原発を考えるびわ湖の会は、この自治体独自で行われる防災訓練に注目し、昨年9月に避難対象地域の現地視察をしました。訓練対象の地域は自然災害にも脆弱な地域だけに、避難計画に基づいた防災訓練が実効性のあるものかどうかを検証するため監視行動を行い、報告書を作成しました。

訓練当日は早朝より手分けして現地入りし、複数の避難集結場所での訓練開始の合図から、訓練後の講演会の様子までを監視しました。避難行動開始の合図がちゃんと住民に伝わるか、住民が安全にバス移動できるか、避難中継場所でのバスの出入りが適切にできるか、スクリーニングの方法や手順はどうか、講話の内容はわかりやすく適切かを重点的にチェックしました。

報告書ではそれらの記録や写真とともに、それぞれの課題を明確にし、今後の改善策についてまとめています。また、資料として、大津市原子力災害避難計画の概要版を付けました。

大津市原子力防災訓練（春季） 監視行動 報告書

はじめに

1. 訓練の開始 バスでの移動
 2. スクリーニング検査
 3. 訓練終了後の講演会
 4. 原子力防災訓練監視行動に参加して
- 資料：大津市原子力災害避難計画 概要

今回の訓練では、昨年の避難訓練では実施される予定だった問診と安定ヨウ素剤の配布は行われず、また除染も行われなかったもので、これは原子力防災訓練としては非常に問題であると捉えています。

また、講話の内容も放射能や原発の危険性が軽視されたものだったので、安定ヨウ素配布と除染作業のことと共に、次回の避難訓練に向け

て今後の申し入れ等で改善してもらえるようにしていきたいと考えています。

大津市以外の地域でも、原子力防災訓練や申し入れ等の参考にしてもらえると嬉しいです。